

会 議 録

| | | | | | | |
|--------------------|---|-----------|---------|---------|-----------|----|
| 会 議 名 | 令和7年度第3回東松山市農業振興対策協議会 | | | | | |
| 開 催 日 時 | 令和8年2月5日（木） | | | 開 会 | 午後2時00分 | |
| | | | | 閉 会 | 午後3時15分 | |
| 開 催 場 所 | 東松山市総合会館3階 302会議室 | | | | | |
| 会 議 次 第 | 1 開 会 2 あいさつ 3 議 題 (1) 東松山市農業振興ビジョンの進捗状況について (2) 第二次東松山市農業振興基本計画について (3) 答申案について 4 そ の 他 5 閉 会 | | | | | |
| 公開・非公開の別 | 公 開 | | 傍 聴 者 数 | | 2 人 | |
| 非公開の理由 (非公開の場合) | / | | | | | |
| 委員出欠状況 | 会 長 | 根 岸 富 夫 | 出席 | 委 員 | 須 賀 昭 雄 | 出席 |
| | 委 員 | 稲 葉 操 | 出席 | 委 員 | 森 屋 弘 一 | 出席 |
| | 委 員 | 福 島 秀 幸 | 出席 | 委 員 | 松 本 創 一 | 出席 |
| | 委 員 | 岸 澤 寛 | 出席 | 委 員 | 柳 澤 誠 一 | 出席 |
| | 委 員 | 三 井 倉 正 敏 | 出席 | 委 員 | 澤 田 陽 夫 | 出席 |
| | 委 員 | 西 川 直 希 | 出席 | 委 員 | 国 分 唯 史 | 出席 |
| | 委 員 | 松 本 禮 子 | 出席 | 委 員 | 利 根 川 清 久 | 出席 |
| | 委 員 | 横 田 信 行 | 出席 | | | |
| 事 務 局 | 環境産業部 部長 | | | 江 口 功 一 | | |
| | 環境産業部 次長 | | | 加 藤 充 | | |
| | 農政課 課長 | | | 中 村 篤 志 | | |
| | 農政課 副課長 | | | 鈴 木 康 之 | | |
| | 農政課 生産振興室 室長 | | | 飯 塚 規 文 | | |

| 次 第 | 発言者 | 概 要 |
|--------|---|---|
| 1 開 会 | 農政課 | 開会宣言 委員出席状況の報告 |
| 2 あいさつ | 根岸会長 農政課 | 根岸会長あいさつ 配布資料確認 傍聴者入室 |
| 3 議 題 | 農政課 農政課 松本創一委員 農政課 岸澤委員 | 議題(1) 東松山市農業振興ビジョンの進捗状況について説明 —質疑なし— 議題(2)第二次東松山市農業振興基本計画について説明 【質疑応答】 パブリックコメントに記載されている「伴走型、アウトリーチ型の支援」とは、具体的にどのような支援を指しているのでしょうか。 市が積極的に関与して、農業者に寄り添った支援を行うべきだという意味のご意見だと考えております。これまでも就農相談などで対応してきましたが、今後は市の職員が直接農業者のもとへ出向き、より手厚く支援を行うべきだと意味でご意見をいただいたものと捉えております。 改良区に関する問題として、高齢化があります。農業を営んでいるのは多くが高齢者です。5年後、10年後には果たして東松山市で稲作がどれだけ残っているか不安です。企業誘致など様々な対策が必要です。また、田んぼの畔を取り除いて、大区画化することは良いと思いますが、その分、大きな機械が必要になります。しかしながら、農道 |

| | | |
|--|-------------|--|
| | <p>根岸会長</p> | <p>は狭く、その点も問題です。多面的機能支払交付金を活用して、柵渠工事などを進めています、追いついていない状況です。市の担当者と調整して、他の補助金も活用しながら、私の所属する上用水地区では少しずつ対応しています。しかし私自身、高齢者であり 30 キロのお米をいつまで持つことができるか不安です。東松山市内 6 つの改良区はいずれも同様に高齢化という課題を抱えています。</p> <p>議長という立場ではありますが、少しお話しさせてください。岸澤委員のおっしゃるとおりだと私も感じています。私は農協に就職し、現在は役員として活動していますが、高齢化問題は、私が現場にいるときから指摘されてきました。その解決のために農地の集積・集約を進めてきた経緯があります。少し前に鈴木農水大臣と話す機会がありまして、その中では比企地域には中山間地が 4 割存在するとお伝えしました。そして、中山間地でも持続可能な農業実現していかななくてはならないとお伝えしたところ、「そのとおりであり、協力してきます」ということでした。</p> <p>また、大規模に農業を行っている方々は素晴らしいですが、後継者問題は必ず付きまとう問題です。現実には後継者がなかなか見つかりません。市や県、農協も、もちろんこの問題は認識していますが、有効な解決策が見つかっていないというのが実情だと思います。</p> <p>地域計画策定に当たり地域内で話し合いを進めていますので、まさにこのような話し合いの中から後継者を少しでも確保していくことが必要となります。</p> <p>農地を維持するにあたり草刈り等、何をやるにも費用がかかります。多面的機能支払交付金を活用すると、地元の費用負担はありませんが、事務</p> |
|--|-------------|--|

| | | |
|--|--------|---|
| | 岸澤委員 | <p>処理は非常に煩雑です。また、土地改良区等の農業系の団体と自治会との関係なども複雑で、多くの課題があるというのが現実だと思います。</p> <p>多面的機能支払交付金は我々も活用し、自前でユンボ等を使って工事費用削減に努めています。地元の負担はゼロ円で、税金を活用して作業ができるので非常に良い制度だと考えています。ただ、自前での大規模工事には限界があります。活動しているのが高齢者ばかりなので、いつまで対応できるかという課題もあります。また、税金を活用するから仕方がないことではありますが、各種書類作成も非常に手間がかかります。この10年間、多面的機能支払交付金を利用してきましたが賦課金だけでは限界があります。</p> <p>稲作については計画にもっと記載があってもよいかと思う。何よりも高齢化が課題です。</p> |
| | 農政課 | <p>問題意識として、同様の考えをもっています。しかしながら、市が、この事業を展開すれば担い手不足が解消されるといった解決策も中々ないというのが現状です。農業者の皆さんと、一緒に考えながら、少しでも前に進めるよう頑張っていきたいと考えております。</p> |
| | 松本創一委員 | <p>就農相談ウィークという説明があったと思いますが、こちらは毎年行っているのでしょうか。また、就農相談で、稲作希望される方は、どれくらいいますか。また、稲作を希望される方がいらっしゃったときはどのような対応を行っていますか。</p> |
| | 農政課 | <p>就農相談ウィークは毎年行っています。就農相談ウィークに限らず、日ごろから就農相談を受け付けている中では、果樹を希望される方が</p> |

| | | |
|--|--|---|
| | <p>松本創一委員</p> <p>農政課</p> <p>松本創一委員</p> <p>岸澤委員</p> <p>松本創一委員</p> | <p>一番多いです。次に露地野菜を希望する方が続き、ここ2年間でいうと、稲作の相談件数はゼロ件という状況があります。</p> <p>稲作希望者がいらっしまった場合の対応とすると、県の農業大学校を案内するほか、国、県等の補助金を活用したサポートを提案します。</p> <p>市外からの問い合わせが多いのでしょうか。</p> <p>おおむね半分くらいです。</p> <p>市外からの問い合わせについても、大半は隣接する市町在住者からであり、県外からの問い合わせは非常に少数です。</p> <p>稲作希望者数が少ない理由の一つに、参入のハードルが高いことがあります。例えば、高額な機械を用意する必要があるなど、経済的な負担が大きいことが挙げられます。そのため、ハードルを下げる方法について一緒に考えていく必要があります。また、先ほど触れた新規就農者に対する伴走型の支援も非常に重要だと思います。何より、稲作だけで収入を得るには大規模な面積を耕作しなければならず、収益面での厳しさが現実としてあります。</p> <p>確かに、稲作は設備投資が大きくなりがちです。トラクターやコンバインなどの大型機械は必須ですが、とても高額ですし、乾燥機や籾摺り機、色彩選別機も揃えなければ収穫後の作業が難しくなります。一方、野菜栽培は比較的少ない機械でも始めやすいので、初期コストの面では取り組みやすいと言えます。</p> <p>稲作を始める場合の費用の目安は、JAで把握しているのでしょうか。</p> |
|--|--|---|

| | | |
|--|--------|--|
| | 稲葉委員 | <p>近年、お米の価格は上昇していますが、今後も継続するかどうかは見通せない状況です。稲作だけで生計を立てていくためには、30～40haの耕作面積が必要だと考えています。また、毎年のように農業機械の価格が上がっているというご意見もいただいております、設備投資が最も大きな課題だと考えています。</p> |
| | 岸澤委員 | <p>農家としては、お米の買取価格が上がったことはありがたいです。ただし、肥料代など他の経費も非常に上がっている状況があります。</p> |
| | 松本創一委員 | <p>設備投資の課題もありますが、若い人が農業に参入するには、「農業で生計を立てられる」という見込みがなければ難しいと考えます。単年で黒字であっても、それが5年、10年と続けられるかが重要です。市内でいちごを生産しているバイルエフさんは、本業は別にありながら、いちごを栽培しています。今後は、このような企業誘致的な取組も必要になると考えています。</p> <p>稲作については水の問題もあるため、一番良いのは稲作農家の子どもが農業を引き継いでくれることだと思います。ただ、生活できるだけの所得の保障がなければ参入は期待できません。現実問題として、農業は生産原価を下回って売らなければならないような状況が続いていることが課題です。</p> |
| | 岸澤委員 | <p>そのとおりで、そうであるなら勤めにいったほうが良いということになってしまいます。安定した収入があるからです。自然を相手にすることだから、非常に不透明な状況があります。</p> |
| | 松本創一委員 | <p>安定した収益性の高い農業の実現が求められて</p> |

| | | |
|--|-------|---|
| | 利根川委員 | <p>います。</p> <p>東松山農業者会 NEXT にも 20 名ほど新規就農者の方がいますが、野菜を栽培する人が最も多く、次いで果樹を栽培する人が続きます。稲作を行う方は少ないです。30ha～40ha の規模で農業を始めようとする、まず融資を受けて機械を購入することになりますが、そもそも融資がなかなか下りないのが現状です。農業公社による農業機械の貸し出しもありますが、自由に使えるわけではなく、もちろん費用もかかります。</p> <p>特定の個人に何千万円という補助金を出すことは難しいと思いますが、地域農業を支えるために、大規模に農業を始めようとする方への投資は必要だと考えます。</p> |
| | 岸澤委員 | <p>農業機械の貸し出しや共同利用については、みんなが使う時期が同じため、なかなか難しい面があります。私も先日、農業公社にハンマーナイフを借りに行ったところ、すでに他の方が使用していました。</p> <p>よく話を聞くと、先に使っていた人の利用中に機械が壊れてしまい、その修理代の一部が使用者が負担したと聞きました。</p> <p>しかし、機械が壊れた際に使用者が負担するのはおかしいと考えます。これはすでに農業公社に伝えてあります。</p> <p>このような状況では、もう借りることを躊躇してしまいます。</p> |
| | 根岸会長 | <p>様々なご意見いただきましてありがとうございます。なかなか決定的な解決策を、この場ですることはできませんが、このように皆さんと意見交換することが何よりも大切だと考えております。</p> |

